

氏名	原 雅 道
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1666 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	急性白血病寛解導入療法に関する研究 第 1 編 難治性成人急性非リンパ性白血病に対する aclarubicin, cytosine arabinoside併用療法効果 第 2 編 急性非リンパ性白血病寛解導入における daunorubicin, cytosine arabinoside 併用療法ならびに aclarubicin, cytosine arabinoside 併用療法の比較検討
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編

急性非リンパ性白血病（ANLL）に対する aclarubicin（ACR）の臨床評価を明確にする目的にて、難治性ANLL16例に対する ACR, cytosine arabinoside（ara-C）併用療法効果を ACR の殺細胞様式をもとにして考案した Regimen (1) (2) で検討した。Regimen (1)（ACR45mg/m²を day 1, 2, 3 の 3 日間連日静注法）群の完全寛解（CR）は10例中 7 例 70%，Regimen (2)（同量の ACR を12時間毎の 2 分割点滴静注法に変更し，day 1, 2, 3 の 3 日間連日投与法）群の CR は 6 例中 1 例，16.6%であり，Regimen (1) の高い有用性が明らかにされた。この成績は難治性ANLLに対する従来の NCDVP療法（CR率50%）と比較しても優れた成績であった。

第 2 編

未治療ANLL16例に対する daunorubicin（DNR），ara-C 併用療法〔Regimen(A)〕，ACR, ara-C 併用療法〔Regimen(B)〕の比較検討を薬剤投与法を同じくした controlled randomized study において行った。CR は Regimen (A), (B) 群とも 8 例中 5 例，62.5%であり，ACR は ANLL 寛解導入において第 1 選択剤とされる DNR と同等の臨床効果を有することが明らかにされた。尚 Regimen(B) 群で寛解持続中の 3 例は昭和60年11月現在 5 年以上生存中であり，5 年経過した時点で治療を中止し，治癒症例と考えられるものである。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は急性白血病寛解導入療法に関する臨床的な研究であってaclarubicin は急性非リンパ性白血球に対して優れた治療成績を示し、かつ寛解導入において第一選択剤とされる daunorubicin と同等の臨床効果を有することなどを明らかにした。これは臨床的に価値ある業績であり、よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。